非核の政府を求める石川の会　会報

非核・いしかわ

事務局
〒920-0848
金沢市京町28-8
石川民医連労働組合気付
Tel 076-251-0014
郵便振替口座
00760-0-15689

県内自治体を訪ねて

能美市教育委員会を訪問
中学校の修学旅行実施状況を聞く

能美市は旧辰口町、寺井町、根上町の三町が二〇〇五年二月に合併して生まれた市です。

北部に手取川、南部に丘陵、西部は日本海に面し、伝統工芸品九谷焼の主産地、子どもたちには「いしかわ動物園」のある町として知られています。

原爆の子の像に奉納された折り鶴パネル

能美古墳群

三世紀半ばから六世紀終わりごろの約三五〇年間にわたって造られた八〇基以上の古墳群があったと推測され、これまでの調査により六二基の古墳が見つかり整備されています。

古墳は南北一km、東西二kmの範囲にまとまる五つの独立丘陵上に分布しており、海に浮かぶ島のような独特の歴史的景観を形成しています。

国指定史跡秋常山古墳（全長一四〇mの前方後円墳・県内最大）をはじめ古墳時代には、能美の首長たちが代々眠る特別な場所であったと考えられています。能美市民俗資料館には資料も豊富にあり、和田山古墳、秋常山古墳はスケッチブック片手に散策するにも良い所でしょう。

なぜ教育委員会訪問か

古代の歴史溢れる能美市の教育委員会を今回訪ねました。きっかけは根上中学校の生徒たちが制作し、広島の原爆の子の像に奉納された折り鶴パネルを今年八月の原水爆禁止世界大会に参加した人が写した一枚の写真でした。

能美市教育委員会では学校教育課課長補佐・指導主事の大下佳宏さんが迎えて下さいました。

非核5項目

①全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
②国是とされる非核三原則を厳守する。
③日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
④国家補償による被爆者援護法を制定する。
⑤原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

花鳥風月

オスプレイ・迷惑しているのは日本国民だけではない。その名を無断で使用されている野鳥のオスプレイで日本名ミサゴのことである▼ミサゴはタカ目ミサゴ科ミサゴ属ミサゴ（鶚）である▼極地を除くほぼ全世界に分布し日本では留鳥として全国どこにでもいるが、北日本では冬季に少なく、南西諸島では夏に少ない。石川県では良く見ることが出来る▼海岸や内陸の河川、湖沼池付近に生息し、肉食性で主に魚類を食する▼トビとほぼ同じ大きさ。雌雄ほぼ同色。背中と翼上面は黒褐色、腹部と翼の下面は白色で顔も白い。嘴は黒く、眼を通って後首にかけて太い黒褐色の線が走る。後頭部に小さい冠羽があり、尾羽は凸型。足は青灰色▼五～七月水辺の岩や樹上に小枝を組んで巣をつくり、二～三個の卵を産む。抱卵三十五日程で孵化し五十二日位で巣立ち、親離れは一～二か月後。成熟に三年かかる。毎年同じ巣を利用する。夕日寺自然園の芝生広場から見える鉄塔上でも毎年営巣している▼獲物を見つけると、翼を羽ばたかせ、空中でホバリング（静止）飛行を行った後急降下し、水面近くで足を伸ばし両足で獲物を捕える。空飛ぶ漁師の別名がある▼戦争目的のオスプレイは生誕地アメリカへ帰れ。（平）

約二五年の歴史、広島への修学旅行

能美市には辰口・寺井・根上の三中学校がありますが、三中学校とも広島への修学旅行を合併前の同じころから実施していました。大下佳宏指導主事さんは新任から昨年まで二〇年間関わってこられたことを最初に話されました。

一年間かけて平和の事前学習と体験学習

三校は学校独自の総合教育の一環に位置付け、それは二年生の学習から始まっていました。根上中学校を例に紹介します。

先ず、一五年戦争の歴史。何故広島に原爆が投下されたのか。原爆の子の像と禎子の生い立ち。原子爆弾の恐ろしさ。自分の住む町に落とされたら。などを事前学習し、三年生の四月に広島へ行き被爆者の証言、原爆ドーム、碑めぐり、平和記念資料館など体験学習。生徒たちが折り、制作した折り鶴パネル（今年）を原爆の子像に奉納。八月に全校登校日の集会で生徒たちのまとめの報告がされています。

広島平和公園にある原爆の子の像前で、平和のメッセージを読み上げる根上中学校の生徒達

毎年五〇〇～六〇〇人の生徒の平和教育

私たちが資料として見せていただいた事前学習の内容、広島での体験学習のメモリストから生徒たちの真剣で真面目な学習態度が伝わってきました。

学校により教育の内容に若干の違いがありましょうが、毎年各校一七〇人から二〇〇人の生徒たちが先生の熱い指導で、生徒自身が考える平和教育を一年かけて行われていることに感銘を受けました。

学校行事ですが広く市民に

修学旅行は学校行事のため市広報などで感想文の掲載はありませんが、生徒さんたちの平和教育と修学旅行で学び成長して行く姿を、市民の方たちにもお知らせして欲しいと思いました。まとめは全生徒が書いていますが、お二人のまとめを紹介します。

「私が一番心に残った活動は証言者のお話です。私たちは川崎敏子さん、和田昌子さんからお話を聞きました。川崎敏子さんは『六七年前に原爆で名前も生きていた証拠も全て失った人々が、実際にこの地で生き、生活していたことを知ってほしい』と語っておられたことが私の心の中に強く残っています。一瞬で多くの命を奪った原爆はもう絶対に使ってはいけないと思いました。こんな物を使わなければならなくなったのは、人間同士が争うこと、殺し合うことになってしまったことに問題があります。それを防ぐためには人と人、国と国との関係をつなぎ、一人ひとりが平和を願うことで戦争を止めることになると思います。世界ではまだ戦争をしている所があります。そのことを他人事と思わず世界中から核兵器の無い、戦争の無い世の中にしていきたいです。」

「証言者の方々のお話…原爆の話はもちろんのこと、当時の細かい話も聞けてとてもよかった。メモも見ずに原爆の威力や被害の細かい数値などを覚えておられ、今も残っているケロイドが痛々しかった。

平和記念資料館…事前学習で知っていたものも展示されていて、深く考えることが出来た。時間が記されているものは八時一五分で止まっていて、とても切なくなった。衣服はボロボロで端が焦げていた。遺体すら残らず亡くなった人もおり、その人が自分の友達や家族だったらと考えると悲しくなりました。

碑めぐり…沢山の碑があった。平和を祈るものや原爆の恐ろしさを忘れさせないようにするものなど、いろいろな思いが込められていました。」

能美市の中学校の修学旅行は広島一泊京都一泊・二泊三日の日程で実施されています。

学校の平和教育や修学旅行がどのようなものか、行政の平和施策と併せて懇談を深め知ることの大切なことを学びました。

二〇一二年日本平和大会ＩＮ東京

米軍基地も軍事同盟もない
憲法の輝く日本をめざして

日本平和大会は毎年、米軍基地がある地域で開催されている。今年は横田基地がある首都・東京で一一月二三日から二五日まで、「米軍基地も軍事同盟もない憲法の輝く日本をめざして」二〇一二年日本平和大会が開かれた。一二月一六日の総選挙、東京都知事選挙を目前に開かれた平和大会には約一五〇〇人が参加。全体交流会では東京都知事候補の宇都宮健児前日弁連会長の挨拶もあり、それぞれ奮闘を誓い合った。石川県からは平和委員会や新日本婦人の会、非核石川の会から五人が参加した。

石川県から日本平和大会に参加した５人
（11月25日、横田基地近くの福生公園にて）

（一日目）国際シンポジウム

日比谷公会堂で開かれた国際シンポジウム「アジア太平洋の平和をどうつくるか　『抑止力』論をのりこえて」には平和大会初参加の東南アジア諸国連合（ＡＳＥＡＮ）議長国のカンボジア政府高官による講演はじめ、アメリカ、フィリッピン、グアム、韓国、日本の平和運動の代表者五人による報告は参加者を励まし、共感を呼んだ。特に印象深かったフィリッピン大学教授で非核フィリッピン連合全国議長のローランド・Ｇ・シンブラン氏の報告を紹介する。

・一九九一年九月一六日、フィリッピン上院が新たな基地条約の締結を拒否して米軍基地の撤去を勝ち取ってから今年で二〇周年となった。米軍基地跡は平和な商業地として発展し、二〇年間で一〇倍以上の雇用が生み出されている。

・基地撤去決定の指針となったのは、「わが国は独立した外交政権を追求する。他国との関係における至上の考慮事項は、国家主権、領土保全、国益、民族自決権である」という国の方針である。また憲法は「国益に沿って、その領土内に核兵器を置かない政策を採用し、追求する」という新しい方針を定めている。

・マルコス独裁政権の時代に原発が建設されたが、マルコス政権が崩壊し、アキノ政権以降は核兵器を認めない憲法の精神にもとづき、原発の稼働を阻止している。福島原発事故の教訓は原発は一つも稼働させてはいけない、というメッセージである。

シンブラン氏の報告テーマは「ピープルパワーこそ外国軍基地と核兵器に対する真の抑止力」である。このような多彩な海外ゲストを迎えて国際シンポジウムを開催できる平和大会実行委員会の底力に感心した。

（二日目）分科会討論

私は非核石川の会からの代表派遣のため、第七分科会「核兵器のない世界と日本の役割―いまこそ、核の傘からの脱却を」に参加した。七つのフィールドワークと一一の分科会のなかでも平和大会の要となる分科会である。

問題提起

一〇月二二日に国連総会第一委員会で発表された「核兵器非合法化声明」が焦点になっているが、被爆国日本は賛同せず、核保有国も動こうとしていない。核保有国に核兵器をなくす政治的決断を求めるためには、被爆国日本の国際社会でのリーダーシップが求められている。「核の傘」論、「核抑止力」論に捉われている日本政府の態度を改めさすため、アピール署名や原爆展、平和行進、原水爆禁止世界大会など大きく成功させること。署名の訴えや行政への働きかけを強めよう。

フロアー発言から

・二〇一五年ＮＰＴ再検討会議に向けて、平和市長会議加盟自治体首長による連名の呼びかけでアピール署名を始動している埼玉県本庄市からの報告

・二〇一〇年ＮＰＯ再検討会議での最終合意（核兵器禁止条約の交渉開始）の具体化に国際社会が大きく動き出していることに確信をもつこと。

・今の時代は、国連と一緒になって核兵器廃絶の運動を推進しているという認識をもつこと。

・国際社会のなかで日本政府の果たす役割が問われている。日本政府の基本姿勢を変えるのは私たちの中心課題である。

・国際政治学者の畑田重夫氏の言葉**「核兵器廃絶は国民の第一義的課題である」**をしっかりと受け止めよう。アピール署名を地域、団体、労組のなかにわかりやすく話していこう。

・核兵器廃絶の署名には賛成だが、中国や韓国との領土問題にふれると安全保障や「核抑止力」論が問題になる。どのように応えていけばよいのか？

・日米安保体制や米軍基地は「抑止力」として合理化されてきたが、沖縄復帰四〇周年にあたり実施した世論調査では日米安保条約の改定・廃棄が七割を超えている。「核抑止力」論をのりこえる鍵は、沖縄と連帯したたたかいである。

○東京では教育現場の右傾化が進み、平和教育がやりにくくなっている、との発言があったため、石川の反核医師の会が各教育委員会の協力を得て小中学校への「はだしのゲン」をひろめる運動を続けていることや、県下各市町で二〇数年も中学生の広島への修学旅行を継続していることを非核石川の会が取材していることを報告した。

（三日目）閉会集会＆ピースパレード

福生市民会館前で開かれた閉会集会には約一〇〇〇人の参加があり、その後米軍横田基地に向けて「平和がイチバン」「ＮＯ ＷＡＲ」「オスプレイ配備に反対！」などコールしてピースパレードが行われた。来年は広島県岩国市で開催が予定されている。

（事務局長　神田順一）

世界中の子どもたちへ
「はだしのゲン」をひろめる会が設立
中沢啓治さんからメッセージが届く

「はだしのゲン」をひろめる会 様

皆様、会の設立、おめでとうございます。

『はだしのゲン』が英語版や各国語に翻訳され始め、ゲンがはだしで世界を闊歩しています。

ゲンは地球上を何百回、何千回もはだしでかけめぐり、愚かな戦争と核兵器を無くすためにガンバル決心でございます。また、世界平和と核兵器反対が少しでも多くの人に理解されるよう、『はだしのゲン』がしっかりと役目を果たしてくれることを願っています。

皆さん、ゲンに力を貸してやってください。ゲンはたくましく生き抜いていくでしょう。

お互い力を合わせて頑張りましょう。よろしくお願い致します。

二〇一二年一二月九日

中沢啓治

原作者の中沢啓治さんからもメッセージが寄せられ、「はだしのゲン」をひろめる会（以下、ひろめる会）の設立総会が一二月九日、金沢市の近江町交流プラザで開かれた。

ひろめる会は、昨年から県内の小中学校への「はだしのゲン」の寄贈運動に取り組んできた核戦争を防止する石川医師の会、「はだしのゲン」翻訳ボランティアのプロジェクト・ゲン、石川県生活協同組合連合会などが協力して設立準備をすすめてきた。

ＮＰＯ法人の認証をめざす

ひろめる会は、「人権の擁護又は平和の推進を図る活動」及び「国際協力の活動」を推進するため、特定非営利活動（ＮＰＯ）法人の設立認証をめざして申請準備中であり、設立総会では、定款、事業計画、予算、役員の審議事項が修正意見も含めてすべて承認された。

理事長に就任したプロジェクト・ゲン代表の浅妻南海江さんは「原爆被害の実相と核兵器の非人道性を伝える事業として、〝ゲン〟の平和のメッセージを世界中の子どもたちに届けたい」と抱負を話された。

ドキュメンタリー映画「はだしのゲンが見たヒロシマ」を上映

総会記念事業として、中沢啓治さんが自身の生い立ち、広島での被爆体験から「はだしのゲン」を描くまでの半生を語るドキュメンタリー映画「はだしのゲンが見たヒロシマ」のＤＶＤ上映もあり、ひろめる会の活動がスタートした。

◎「はだしのゲン」をひろめる会連絡先
金沢市長坂三丁目一〇番二〇号　浅妻方
電話／ＦＡＸ　〇七六（二四二）六五五九

非核石川の会　リレーエッセイ

「脱原発」で終らずに

橋本　哲哉

今年の秋口、まだ暑い九月の終わりに、畏友村田武さんの新編著『脱原発・再生可能エネルギーとふるさと再生』（筑波書房）が送られてきた。村田さんとは金沢大学で長い付き合いがあり、その後九州大学に転出し、今は愛媛大学の特任教授として活躍中だ。元々は世界経済、農業経済が専門で、ドイツ環境問題から地域経済と多彩な研究をくり広げている。早速期待を持って頁をめくってみた。

ちょうどこの原稿を書いている今は衆議院選挙中で、雨後の竹の子のように頭をもたげた政党が、何れも「脱原発」について発言せざるをえない状況にはなっている。しかし、まやかしが大変多い。「尖閣問題」で挑発して、三・一一から国民の眼を反らそうと躍起になった石原慎太郎は、なんだか妙な言い回しをしながらも無視はできないようだ。もっとも、大半の政党は「沖縄・オスプレイ」「消費増税」について口数が少なく、忘れた振りも見えるが、これ以上のへたな時事解説はやめておこう。

前掲書の感想をひとことで言えば、「ドイツができることを日本でできないわけはない」となる。脱原発は重要で、加えて脱化石燃料の主張は、本会報の読者には「釈迦に説法」だろう。よく聞く主張、とくに財界のお偉方は「日本のように資源が乏しく高度に発達した工業国には原発は必要不可欠」とのたまう。ドイツは立派な先進工業国で、日本と事情はよく似ている。しかしドイツは原発〇に踏み切ったのだ。

一九九〇年代初めドイツに滞在したことがあるが、ドイツ人の環境問題に対する日常的な努力を実感した。生活感覚も良質な日本人とよく似ている。だから日本が真似できないわけはない、と考える。だが、ドイツには長い間環境問題と取り組んできた歴史があるのを忘れてはならないが。

もうひとつ、本書の大事な主張は再生エネルギーへの取り組みが地域活性化につながることを力説する。これもドイツを手本として紹介していて、ここでも「ドイツの実践に学ぼう」ということになる。

もはや字数を超過してしまった。本書は手に入りにくいかもしれないので、一冊本会報編集委員会に寄贈する。ぜひ立ち寄ってご覧願いたい。

ぼくの平和活動

原　和人

僕が生まれたのは、一九四九年。その年は、旧ソ連のセミパラチンスクで核実験が初めて行われた年だ。アメリカが原子爆弾を製造して、広島・長崎に原爆を落としたのが一九四五年。旧ソ連が核兵器を持つことによって、核兵器開発競争が始まった。それから一九六三年に部分的核実験停止条約が発効するまで、世界の各地で大気圏内の核実験が行われ、放射能が地球を汚染した。

僕の小さいころに、大気圏の放射能汚染がピークに達し、「雨にぬれると髪の毛が抜ける」と言われた。僕は、大気圏の核実験競争の頃に子ども時代を過ごした。

僕が中学一年の時通った田舎の中学校の近くに映画館があった。時々、そこで映画鑑賞が行われたが、ある時、僕は「ひめゆり部隊」という映画を鑑賞した。ショックだった。どうして、彼女たちがあんな悲惨な戦争に巻き込まれたのか、そして、最後に自害しなければならなかったのか。映画を観終わって、「なぜ、なぜ」という疑問が僕の心の中に湧き出てきた。そこで、中学の図書館で沖縄戦のことを勉強した。僕が、自分の意志で戦争に向かい合った初めての出来事だった。僕の平和活動の第一の原点は沖縄だ。

僕の高校入学は一九六五年で、卒業は一九六八年だ。僕は福井市内の高校で勉強した。当時、ベトナム戦争が激しくなり、中国では紅衛兵の動きがあった。日本の田舎の片隅で勉強していた僕も、これらの世界の動きと無縁ではなかった。

ある時、福井の市内の電柱に、ビラが貼られていた。岩波新書の「南ベトナム戦争従軍記」の著者で、岡村明彦氏の講演会の案内だった。ベトナム戦争に興味を持っていた僕は、一人で彼の講演会に出かけた。講演が終わり、講演会の常で彼と語り合おうという会があった。講演の話に衝撃を受けた僕は、近くの喫茶店で行われたその会について行き、大胆にも、「あなたが言ったことは、本当なのか。日本の新聞では、聞いたことはない」と質問した。彼は、僕にこう言った。「君は、高校で英語を習っているのだろう。ニューズウィークやタイムを読んでみろ。そこには事実が書いてある」と。

僕が高校を卒業するころ、学生運動が盛んになりつつあった。卒業して大学に入ったら、彼らのように行動したいと、受験勉強の合間、高校時代の仲間

とともに語り合った。

一九六八年四月僕は金沢大学に入学した。

その年の八月の夏休みに一人で、中国から四国を回る二週間ほどの旅に出た。その時、初めて広島を訪れた。原爆資料館を見学した後、対岸の原爆ドームを見ながら、元安川の川岸にたたずんだ僕の目からは、涙が出て止まらなかった。拭いても拭いても、止めどもなく涙が流れてきた。一瞬にして一〇万人の命を奪った原爆に対する怒り、原爆の悲惨さ、むごさに対する感情ももちろんあったろう。でも、涙を出し続けたのは、「無念さ」だったような気がする。どうして、人類は、このような悪魔の兵器を作ってしまったのだろうかという無念さだ。広島が、僕の平和活動の第二の原点となった。

僕はそれからの学生時代、医師になるための勉強をしながら、大学の民主化や沖縄返還闘争やベトナム反戦運動などの平和の活動に参加した。

一九七四年に大学を卒業して医師になった僕は、平和への関心は持ちながらも、外科医としての技術を向上させることと、患者さんへの治療に手いっぱいで、平和活動に積極的にはかかわることはできなかった。

一九九二年僕に転機が訪れた。僕の病院が所属している全日本民主医療機関連合会（全日本民医連）の役員にならないかというお誘いだった。全日本民医連の理事は、外科医としての病院の仕事と両立できなかった。外科医は手術という手段を介して患者さんが病気とたたかうお手伝いをする仕事だ。手術をして、患者さんがたたかっている間、側にいて一緒に頑張らなくてはいけない。そう簡単に現場を離れるわけにはいかない。僕は、「外科医」をやめることを決意して、全日本民医連の理事になった。

僕が全日本民医連の理事になった翌年の一九九三年、旧ソ連の核実験場で核実験被害に関する国際会議に、全日本民医連からも参加しないかという呼びかけがあった。僕は、日本原水協の高草木博さん、山梨の宇藤千枝子先生と一緒に、現在はカザフスタンのセミパラチンスクを訪問した。セミパラチンスクは、一九四九年、私が生まれる一ヶ月前に初めて核実験が行われ、その後四七〇回もの核実験が行われた所で、住民には核実験が知らされず、住民はモルモットのように扱われた。

セミパラチンスクから帰ってくると、僕は、いつの間にか、全日本民医連の理事会の中で平和担当とされ、一九九五年の被爆四〇周年の「草の根行動」の国連への要請行動に参加し、その時、ネバダ砂漠にある核実験場を遠くに見た。その後、一九九九年のオランダのハーグでの行動、二〇〇五年にはスリランカの津波支援、そしてヨルダンへのイラク支援など、様々な海外での行動に参加させていただいた。

そして、二〇〇八年全日本民医連の役員を退任してからも、医師や医学者が中心になって組織している「核戦争に反対する医師の会」にかかわり、非核の政府を求める会の常任世話人の末席をけがしている。

広島や長崎では、被災した人々を治療しなければならない医師や病院が壊滅的な被害を受けた。広島では、一〇万人を超える被災者に対して、医師として仕事ができたのは、たったの二七人だけだったという。長崎では、被災者の救援の先頭にたって治療しなければならない長崎医科大学が壊滅的な被害を受けた。原爆が落とされた後、市内の医療機関が全く機能したかったので、多くの人たちが救援に入って被ばくした。当時は、放射線の恐ろしさが全く知られていなかったからだ。

福島の原発事故では、放射能汚染のあった地域には、避難勧告の対象になり救援すら入れなかった。ひょっとしたら、助かった人たちがいたかもしれないのに。

核戦争に対しては、医者は無力だ。医師の任務が、いのちを救うことだとしたら、核戦争を防止し、核兵器の廃絶を求める運動を行う以外に方法はない。核兵器は、一瞬にして罪もない人々の命を奪い、被爆者をその後の放射能障害で苦しめる。核兵器は、人道的にも決して許される兵器ではない。一日でも早い「核のない世界」に向けて、僕自身もこれからも頑張っていきたいと思う。

詩人会議かなざわ「独標」より

幸せの重さ

池田　珠子

戦争で母国を追われ
難民キャンプで暮らす人たちも
産油国の豪邸　自家用ジェット機で
ショッピングに出かける婦人も
家畜を引き連れ
裸足でブッシュを駆ける部族の子供も
生まれた時から戦争しか知らない

紛争地域の少年兵士も
重い荷物を背負うシェルパや案内人を引き連れ
数千メートルの山に挑み続ける探検家も
世界の市場を左右
高層ビルオフィスで働くトレーダーも
一日五回聖地に向かい伏し祈る人々や
チャドで全身を覆い自由行動のない女たちも
映画の受賞発表にレッドカーペットを
フラッシュを浴びながら歩く俳優たちも

ベットに横たわる患者や老人の看護介護を
笑顔で処置する医療関係者も
災害で全てを失い命ひとつで逃げ延び
仮設住宅で放射能に怯えながら将来を描けない人も

なり済まし演技　電話一本で
老人から虎の子を振り込ませる詐欺グループも
果てしない宇宙の天体観測と研究
ロケットを打ち上げる化学者も
仕事も無く田舎へ帰ることは諦め
河川敷にあり合わせに建てた小屋に隠れ住む人も
権力争いと政争政略に明け暮れ
明日へのベクトルさえも示せない政治家も
農林漁業に従事し
食の安全を担っている沢山の方々も
明日をも知れぬ病を背負い
医療と縁が切れない難病患者も

絆　という言葉で括れば
世界は平和そのもの

幸せとは
それぞれの価値観があって
数値や言葉では表せない
おしなべて人生を量れば
「幸せ」のかたちは違っても
掬いあげ　掌に乗せるその重さは
どのような人も
ほとんど変わらない　と

和定例句会報より

宿題「後ずさり」　**松　和子選**

後退りしながら民に泥をかけ　**大峰**
明治まで後ずさりする戦仕度　**茂明**
いつだって臣下の礼で後退り　**林**
後退りしながら泥鰌の最期っ屁　**大峰**
後退りして反中を煽ってる　**一杜**

地位　**啓**

財政の渕泥鰌に威圧のＴＰＰ

天位　**一杜**

吠えながら後退りする嫌中派

軸

野田政権民の要求に後ずさり

非核平和をめぐる海外情勢

ＮＰＴ再検討会議へ
「大量破壊兵器の廃止・中東会議」

「二〇一〇年のＮＰＴ再検討会議の唯一の『具体的なロードマップ』である『大量破壊兵器の廃止・中東会議』は二〇一二年中に開催予定であったが、パレスチナ、シリアの状況により延期になった。

この会議はなかなか具体化されなかったが、国連事務総長がフィンランドに議長を依頼し準備されてきた。今回のガザ地区の戦闘は、ハマスがイスラエルを攻撃し、イスラエルが反撃したものである。『中東会議』に消極的なアメリカや反対しているイスラエルが、この機会を利用したことは想像に難くない。国連は来年に開催するとしているが、この会議が開催されなかった場合、二〇一五年のＮＰＴ再検討会議に大きな影響を与えるであろう。」

「核兵器の縮小、撤廃の動きは、核兵器は最大七万発から現在二万発に減少しているが、核軍縮に進んでいるわけでない。各国は数でなく、質の問題に転嫁しつつあり、アメリカは弾尾に精密誘導装置をつけた核爆弾を開発している。」「ロシアはソ連崩壊後、最大の核戦略の総合訓練を行った。」「中国は核兵器を増やしている唯一の国で原潜に核弾頭を搭載しようとしている。」「日本は石原の核シュミレーション発言や自民党の国防軍構想など、より右傾化し、改めて憲法九条を守る運動が大切である。」

◎二〇一二年一一月三〇日、非核の政府を求める会の藤田俊彦常任世話人の報告から

《非核平和・行事予定》

・**一二月二二日(土)**一五時…医療福祉問題研究会第一〇九例会「雇用の劣化の現況とデイーセントワーク実現の課題」講師・伍賀一道金沢大学教授・近江町交流プラザ四階集会室

・**一二月二二日(土)**一三時半…非核の政府を求める会シンポジウム「核兵器条約交渉の決断か、核抑止への固執か」東京

・**一二月二三日(日)**一四時…いしかわ自治体問題研究所第八回総会・記念講演「東日本大震災の復興とこれからの備え」講師：塩崎賢明立命館大学教授・近江町交流プラザ四階集会室

・**一二月二六日(水)**一三時…日本生活教育連盟石川冬の集会・講演「脱原発の島で暮らす」講師：上関原発反対運動リーダー山戸孝氏・片山津温泉ホテル森本

・**一月一二日(土)**一一時…むぎわらぼうし恒例の一品持ち寄り新年会・石川県教育会館二階集会室

・**一月一八日(水)**非核の政府を求める会常任世話人会・東京

・**一月二三日(水)**一八時…新藤兼人監督「一枚のハガキ」上映準備会・平和と労働会館

・**一月二五日(金)**一八時…平和団体合同新年の集い・石川県教育会館二階会議室

・**一月二六日(土)**一〇時…北陸原水協学校・基調報告・高草木博日本原水協代表理事・石川県教育会館二階

・**一月二七日(日)～二月三日(日)**能美市長と市議補欠選挙公演・野々市フォルテ

・**二月一〇日(日)**一四時…金沢市民劇場例会「真砂女」公演・金沢市文化ホール

・**二月一〇日(日)**一三時…石川県社会保障推進協議会・新春社会保障講演会・講師：横山寿一金沢大学教授・石川県教育会館二階会議室

・**二月一七日(日)～二四日(日)**白山市会議員選挙

・**二月二二日(水)**非核の政府を求める会常任世話人会・東京

・**三月三〇日(土)**一三時…「渡辺治講演会」労済会館三階ホール・九条の会・石川ネット主催

・**六月一日(金)**非核の政府を求める会総会・東京

・**六月九日(日)**核戦争を防止する石川医師の会第二六回総会・記念講演講師・アーサー・ビナードさん・金沢市文化ホール二階大集会室

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　家　正子

《編集室より》

忘年会で美空ひばり「川の流れのように」の自作の替え歌「あとは野となれ山となれ」を披露しました。皆さんも歌ってみませんか？（ま）

＊　＊　＊

知らず知らず　生まれていた　原子力ムラ
振り返れば　信じていた　安全神話
運転すれば　たまり続ける
半減期二万四千年の　プルトニウム
ああ川の流れのように　ゆるやかに
流れてく　核のゴミ（とんでもない！）
ああ五〇年以上も　悩んでも
思いつかない　ゴミの処理

生きることは　エネルギーを
大量消費すること
原発を基幹　電源にして
世の中を　電力によって
支配したい　それがまた人生（バレたか！）
ああ核燃料サイクル　人類の
見果てぬ夢のエネルギー
ああナトリウムが漏れても
プロジェクト不滅の法則が　ある限り

ああフクシマから漏れても
四〇年以上　稼働していたとしても
ああずっと動かしたいよ　儲かるから
あとは野となれ　山となれ